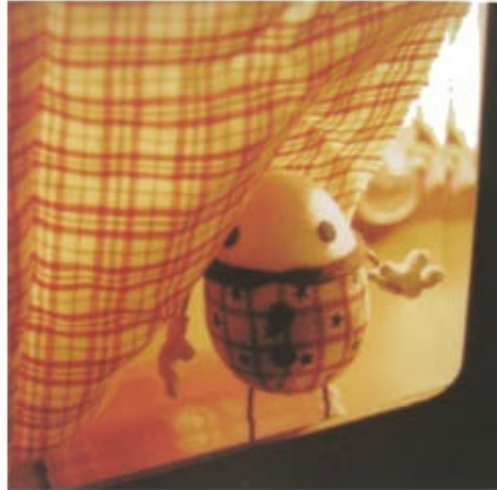


星のカケラ



星のカケラ

とても星のキレイな夜の事です。
流れ星が一つ、森の方に
落ちていくのが見えました。



(森に行ってみれば

星のカケラが

拾えるかもしれない！)

偶然 窓からそれを見た
玉生くんは思いました。



そこで次の日の朝、
さっそく森へ出かけたのです。





木の根っこや葉っぱの下も
探してみました。
でも……
なかなか見つかりません。

「うーん、どこにあるかな？」





玉生くんが もう あきらめようと
思ったときです。

向こうの方に 何か 光るものが
見えました。

「なんだろう？」

近づいてみると……。

「ふう。なかなか見つからないなあ」





「あった！」

「あ」



玉生くんは大よろこびで
星のカケラを家に
持ち帰りました。
とても 素晴らしい宝物では
ありませんか！



ところがそれを見た物知りの
てんぐどんが言いました。

「おや、玉生。それは
ビー玉じゃないかい？」
「え、ビー玉？」
「そうさ、ガラスの玉さ」
「そんな！」





玉生くんはがっかりして
しまいました。

あんまりがっかりしているので
かわいそうに思った
てんぐどんは言いました。

「なあ、玉生。
そんなに落ち込むことはないさ。
ワシらが今立っているここも、
大きな 大きな
星の一部なんだよ。
つまりお前さんは
いつも いつも
星に玉乗りをしているんだ」



それを聞いて玉生くんは
なんだかうれしく
なりました。

「そっか。じゃあ ポクは
いつも 宝物を持っているんだね」

